

# まえがき

緑地の雑草管理には様々なツールがありますが、工業的産物である刈取り機械、除草剤、マルチシート等とともに、“植物”も実は雑草制御の優れたツールです。

NPO 法人緑地雑草科学研究所では、緑地の雑草管理各ツールをその本質・特性と多様性、可能性、リスク等から、公開シンポジウムにおいて順次検証してきました。そして第4回の今回は、“植物”すなわち地被植物と植物系発生材を雑草制御の視点から取り上げます。

地被植物等植生による土壌の被覆は、景観形成、土壌の改良・保護、熱環境の緩和、アメニティ空間の形成等多くの機能を有しています。他方、剪定枝や刈り草等植物系発生材の活用は、環境負荷を低減させる循環型のシステムでもあります。つまり、“植物”の雑草制御への活用というのは、植物という資材のもつ様々な付加価値のなかに有機的に組込まれるものであり、その実現には多様な関係者の多面的な視点を必要とします。さらに、植被の確実な形成と維持管理には、他のツールの適切な利用が不可欠で、その関係者の知識と技術を必要とします。

このように、今回のテーマには“環境”と“総合的雑草管理 (Integrated Weed Management)”という、緑地の雑草管理において最も重要な要素が内在しています。植物の雑草管理への活用事態に関しては、現在まだ事例が散在している段階で、十分な議論をするための知見が整ってはいませんが、多様な専門と多様な立場の人々が連携し、知恵と技術を出し合う必要と価値のあるテーマです。このシンポジウムを、植物を活用した雑草管理技術におけるそれぞれの役割について各参加者が再考する機会を提供し、地域住民・市民の安全と環境を担保するこの技術の今後の発展の契機にできればと願っています。

2012年10月

NPO 法人緑地雑草科学研究所  
シンポジウム運営委員長 伊藤幹二

# 目 次

緑地管理で排出する植物系発生材のオーガニックマルチ資材としての機能…………… 1

角龍市朗（保土谷U P L株式会社）

地被植物の雑草制御メカニズム：シバ類を例にして…………… 9

伊藤操子（京都大学名誉教授／NPO 法人緑地雑草科学研究所）

グランドカバープランツの法面での生育および土壌保全機能と雑草の発生……………18

大谷一郎（独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
近畿中四国農業研究センター）

緑化植物としてのイネ科多年生草本チガヤの生育特性……………26

富永 達（京都大学農学研究科）

緑地雑草管理における植物の活用：その多面性からの考察……………34

伊藤幹二（マイクロフォレストリサーチ株式会社／  
NPO 法人緑地雑草科学研究所）